

学校番号	22	学校名	吉田特別支援学校駿遠分教室	校長名	伊藤 聖子
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全・安心	ア 他者との安定した関わりを築き、自分や相手の良さがわかる教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> あいさつを含めた他者への関わりや、自ら思いを伝えられる児童生徒が増えた、と答える教職員 100% 自らの人権感覚や道徳心を高め、児童生徒の見本となる指導ができた、と答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 係の仕事や児童会、各種委員長それぞれ個々に応じた活躍の場面が設定されていた。 人権研修や人権チェック定期的に行うことが自身の言動を振り返る機会となった。 子どもの手本となるように意識することができた。 意識していたが、叱咤の時にできない場面があった。
	イ 児童生徒が安心安全に生活できる教育環境の整備と教員の対応力向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が安心安全に学校生活を送ることができるよう日常的に環境整備を行えた、と答える教職員 100% KYT を行うことで、いろいろな場面で危険を予知し対策を講じることができたと答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> KYT について、特に行事前は係が意識していつも声出しをしてくれるので、毎回危険予知をして、学習に望めた。 ヒヤリハットの共有でいろいろな場面での危機回避ができた。
	ウ 事故や大規模災害等に備えた危機管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 事故やケガ等の緊急時の対応力が向上したと答える教職員 100% 大規模災害時における自らの役割を理解し、日ごろから実際の動きをシュミレーションしながら勤務できたと答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 分かっているつもりでも、研修で再度確認することで、すぐ対応できるようになっていくと思うので、研修は大事だと感じた。 危機管理マニュアルを開く機会が少ないため、定期的に確認する時間を設けられるとよい。
	エ 働きやすい職場環境づくりと組織的な対応ができる教員集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 日常業務や分掌業務を行う上で効果的・効率的な遂行を意識した業務改善に取り組めたと答える教職員 100% 職場における良好な人間関係づくりを意識して、報・連・相や連携・協力に努めることができた、と答える教職員 100% 	82%	B	<ul style="list-style-type: none"> 事前に質問事項をまとめておくことで、ICT 支援員を有効に活用できた。 業務改善に繋がった。 自分自身にうまく還元できなかった。 直接具体的に教えてもらう機会がなく、うまく活用できなかった。 学部会や職員安全衛生委員会での確認が定期的であり、協

					<ul style="list-style-type: none"> 力体制をとることができた。 定期的に校内の見回りをする ことで大きな事故なく、安全 な職場体制を整えることが できた。
授 業	ア 学習指導要 領を踏まえ、児童生 徒の思考・判断・表 現を引き出すため の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の思考・判断・ 表現を引き出すための 授業実践ができたと答 える教職員 100% 	96%	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活単元学習の授業づくり で、児童の興味関心と学習 指 導要領の抑えるポイントの擦 り合わせに難しさはあるが、 学部会等で話し合うことで、 主体性を大切にした授業計画 を立てることができた。
	イ 個別の指導計画 における適切な目 標設定と効果的な 指導実践	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じた適切な個 別の指導計画の作成が でき、効果的に目標達 成ができたと答える教 職員 100% 分教室の児童生徒の特 性を理解して支援につ ながることができた と答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師から学んだことを、 次の単元に生かすことが できた。 第三者の生徒の見取りで新た な気づきが生まれて、授業に 生かすことができた。 重度児童生徒の思考・判断・ 表現を引き出す支援をもう少 し知りたかった。
	ウ 9年間の成長と 自立を見通した各 部における教育課 程の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> 学年段階や個人の実態 に応じて自立に向けた 指導実践を行い成果が 出たと答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標の根拠がはっきりしてい た。 国算研修会は、他のグループ の教材を知るよい機会となっ た。 特性を再認識できた。 生徒に任せる場面と支援する 場を精査したことで、自分た ちで主体的に活動する姿が多 く見られた。
	エ 個に応じた ICT 活用の推進	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が理解を深め たり気持ちを伝えたり することに ICT を活用 できたと答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修を通して学んだことが、 教材作りや授業での活 用に結び 付いた。 定期的に行ってほしい。 教員自身が学んだことで、児童 に指導できた。(Imovie)
	オ 生涯教育につな がる教育活動（文 化・スポーツ・芸術） の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の体力の維持 向上と日常的に運動に 取り組む姿勢が実感で きると答える教職員 100% 表現力や想像力を高め るために読書や芸術活 動(音楽・美術)に取り 組める環境を整え、教 育活動を推進できたと 答える教職員 100% 「好きな本が増えた」 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動をすることで得られる 効果を具体的に伝えるよう にした。その結果子どもたちが主 体的に準備片付けを行う姿が 多く見られた。 ドラムサークルに関しては、毎 年経験していることもあり、準 備や片付けも含めて児童生徒が 主体的に学習できた

		と答える児童生 100%			
連携	ア 地域社会とつながるための教育課程の実現を目指した、地域資源を活用した授業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源や環境を活用した教育活動を通して、つながりを深められたと答える教職員 100% 地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を実施して「生徒の理解啓発につながった」と答える教職員 100% 	82%	B	<ul style="list-style-type: none"> 福用駅清掃に取り組めた。 地域の方との学習は、人材を十分生かせる活動にならず申し訳なかった。 地域人材をどう発掘、活用するか、地域の人達に、来校してもらうにはどうしたらいいか、今後の課題である。 地域交流は、計画を立てても実現するのが難しいと感じた。校外での交流の方が実現可能か。
	イ 自己実現を図るためのキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や年齢に応じたキャリア教育の実践ができたと答える教職員 100% 児童生徒の自己理解を深め、自己選択や自己決定を促す指導の充実が図れたと答える教職員 100% 	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> 教え込む部分と、寄り添う部分と明確に活動を分けたことで、自分で判断し動けるよう仕掛けた。
	ウ 共生社会の実現に向けた地域・学校・家庭(学園)の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて地域の関係機関や保護者と連携して課題解決に取り組めたと答える教職員 100% 	91%	B	<ul style="list-style-type: none"> 指導連絡会の様式が変更になり、児童生徒の目標の確認ができ良かった。 個々のトラブルに早急に対応できない時があった。